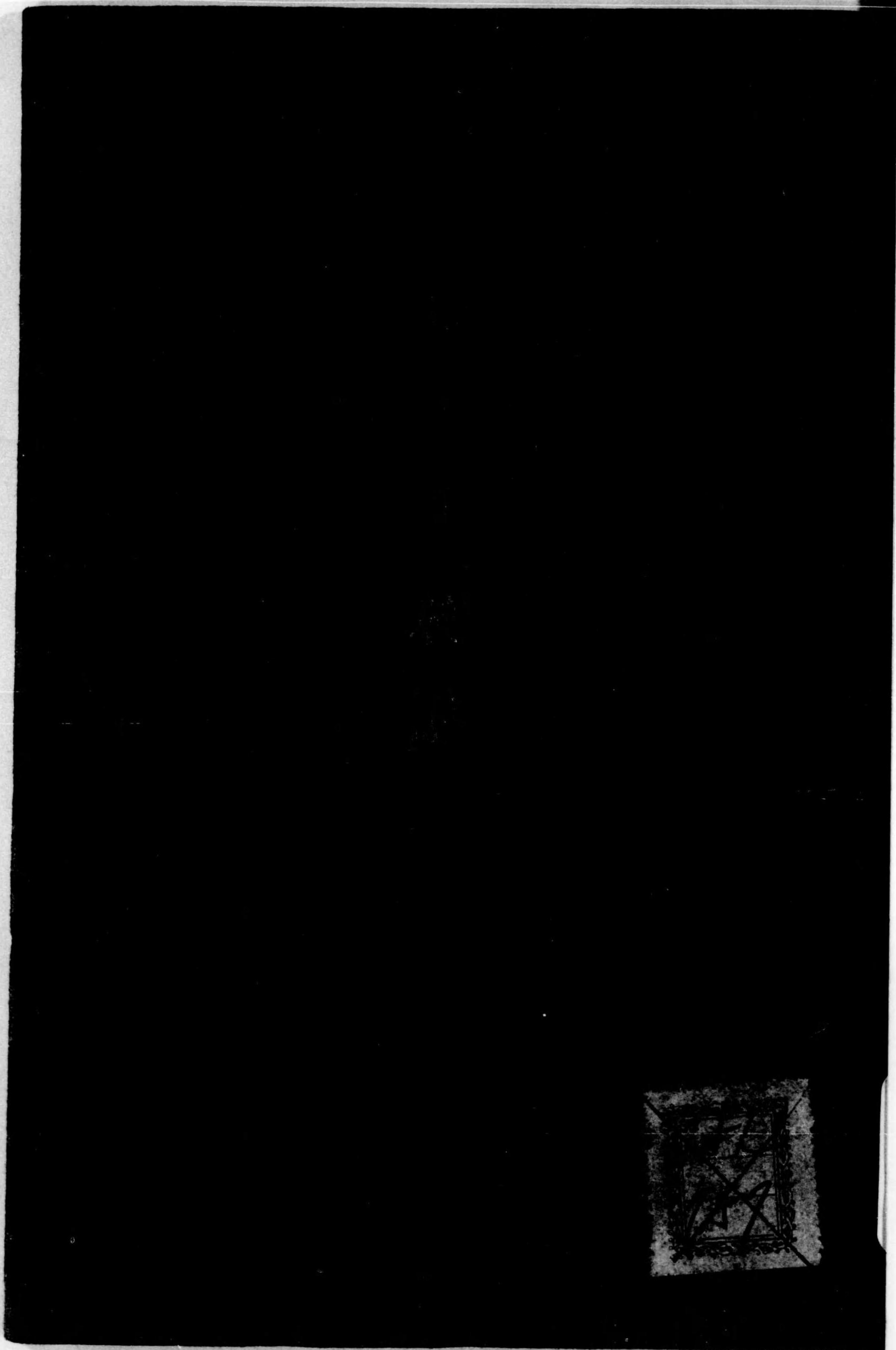


始



世界和平論



特106
394



世界
統一
大平
和策

大正
9. 11. 18
内交



第一卷 序

世界平和論

自序

全世界の大戦亂就中歐羅巴の全土は五個年に渉る、屍山血河の大悲惨なる、大劇戦は終局を告げたり。然れども是れは眞の平和に非らず、唯た平常に復したるのみ、頑迷なる人間界は、未また兇惡野蠻なる、殺生機

具は、今猶ほ製造しつゝあり非文明なる海
陸軍備は、國防の必要をこして、貴重の經費は
濫消しつゝあるに據り。天神は吾人に使
命して。曰く速かに彼等人類界の迷夢を
覺醒せしめんか爲めに、此の眞正なる、世界
大平和論を著述せしめたり。故に本論を
再讀して以て、世界永遠の大和平公益の爲
めに、五大原理に則り。五洲同盟統一政治

二

の樂園を創設して、兇惡なる武器の代りに、
精心的道義の競争を以て相集り。神子の
志想進化の大安樂土天上以越の樂國たら
しめよ。

大正九年一月

著述者 高見 太暢

三

目次

- 世界統一大平和策……………一
- 人道……………三三
- 人生の本分……………四七
- 一家の平和及一國の平和……………五七
- 時代の要求する宗教……………七五
- 日本の日本魂及勞、資、問題……………八三

二

- 世界平和論……………一〇一
- 東洋の國是……………一一五
- 北米大統領ウヰルソン氏に與へる書
……………一二一
- 先きの獨帝カイゼル君へ誨ふるの
文……………一二七
- 獨逸聯邦國民へ注意……………一三三
- 佛蘭西共和國一般國民に警告……………一三七

- 英吉利帝國臣民へ勸告……………一四一
- 印度人に讀んで貰ふ論……………一五一
- 支那國民に謹告……………一五七
- 我日本帝國朝野の政事家へ告白……………一六七

了

世界統一大平和策

高見太暢 著

第一編

世界の太平

和は、天地の間に天・風・火・水・地の

五元素よりなるを

発見して、其五基の教を

以て、地球と等しく丸く、地上の各人種を統



一す可きものなり。

第一章

天に五色あり、地に五性あり、かるか故に。
五大憲法を制定し、世界各國を。五分割五
個國と爲す可し。

第二章

地球に、五大洲あるに基き、五首を置き。五
大聯盟を以て、平等行政を行ふ可し。

第三章

地球上に、五色人種あるか故に。五大協同
一致、人種の等差を論せず、平等の權利人道
を重んじ。一種同人の行政を行ふ可し。

第四章

地球上に、五種動物あり。人、禽、獸、虫、魚の五
別あるか故に。人類は東西洋の別を問はず、
國土の盛衰を云はず。一致團欒して、五

基行政を行ふ可し。

第五章

大地球上に、五色あり、五行あり小地球の人類は。五體を有し、五指五臓を有するか故に、五音を發して。五大洲の五人種を。五大同盟を行ひ。五堺兄弟行政を以て。大統主を置き、五ヶ年更代の。順環行政を行ふ可し。

第二編

第一章 總論

天に五色あり、地に五性ありかるか故に。五大憲法を制定し、世界各國を。五分割とし、五ヶ圀を爲す可しとは。夫れ、大天を仰き見よ、木・火・土・金・水の。五諸星ありて、太陽の火氣を以て、新羅萬象を生

育し、月輪の陰徳に據り、萬物の水氣を惠ま
れ。地上の五性とは、則ち五行、木[◎]火[◎]土[◎]金[◎]水[◎]
なり。大地球の地上は、則ち陸地の土、海上
の水、陸上の草木、陸地内に、各種、金[◎]銀[◎]銅[◎]鐵[◎]の、
鑛物の埋藏しあらずや。陸地中樞には、常
に火熱の燃へつゝあり。人類は、勿論萬物
皆な、此の五行と離る可からざるか故に。
因を修むるに、五大原則を説きて。五行

政を行ふ可き、因縁を示したり。
地の五性とは、
夫れ天に、五色ありとは。天に青[◎]黄[◎]赤[◎]白[◎]黒[◎]
の五色あり、晴天の空に、青[◎]雲あり、黄[◎]雲あり、
朝日の登る時は、赤[◎]色東天に靉[◎]黤[◎]く、白[◎]き雲
あり、雨天の時は、黒[◎]雲天を掩ふか如き。天
に五大色あるは、明かなる事實にして。世
界の大平和に。此の五眞理を應用して。

五、大憲法制定を高唱する以故なり。
木。火。土。金。水の五行の第一、木の發育を論して、亦た五大行政の、大切なるを悟る可し。
我日本帝國の日本魂は、問へは、朝日に匂ふ山櫻と、答へる、櫻の花は、何故に、五つの花辦あるか、此の櫻の樹は、數萬朶の蕾と花を製出開花するに當つて、間違なく、萬朶共に平等に、五萼の花辦を描へて、咲き出するは

妙ならずや。それ斯の如く、一樹の花と雖も。然り。天に、五星、地に、五行、則ち。一樹に五つの教へあり。其他、梅の木亦た然り、而して。樹木は總して、五つゝの枝より發育するものなり。松に五葉あり、路邊の草花と雖も此の五大原理に基づき、五瓣の花萼を以て。四季に、競ひ咲くものならずや。嗚呼天地の數理、此の五大則に則り。五大

行政論も、此原理に基く可きものなり。
木の葉、亦た五葉よりなるあり、艸花の葉も、
又た五葉の形を爲すを見よ、天に、五色ある
か如く、艸木の葉に五色あり、則ち、青葉より、
黄葉あり、赤色あり、白色となり、黒色と成つ
て、落葉するものなり。花の色は、如何、青あ
り黄あり、赤あり、白あり、黒色もある、草木の
花と雖へとも、五色の原理に則り、年々開花

するに於てをや。人類も亦た學ふ可きも
のなからんか。
火に就きても、亦た同じく、青。黄。赤。白。黒。の、五
色の火の色あるか如く。
土に至つて、猶且つ、青。土あり、黄。土あり、赤。色、
土あり、白色。黒色と。五色の異なる、土色の
以故は如何に。
金に、青。銅あり、黄。銅あり、赤。銅あり、白色。銀あ

り、黒色の鐵あり、黄金に至つては。人類の尤も競ひ争ふて。人生死活の大問題として獲得を欲するものならずや。

水と雖へとも、五色を帯ひ居るものにして、五行皆な五色たり。

天に五色満ち、地上見渡す限り、五色ならざるはなし。かるか故に、五大原則を、鑑みて。五大憲法を制定し。歐羅巴、亞米利加、亞細

亞、其他大洋洲を。大別して、五ヶ圀と區分して、地球の全土を、五ヶ圀と、制定確立す可し。

第三編

第二章 総論

地球に五大洲あるに基き、五首を置き、五大聯盟を以て、平等行政を行ふ可しとは。

天に五色あり、地に五行ありて、地球の陸地は何か故に、五大洲に分洲し居るかゞ、則ち研究する、大問題にして見よ。亞細亞、亞弗

一六
利加洲、歐羅巴洲、南北、亞米利加洲、其他大洋洲、と、五大分立して現存するは、不可思議の現象ならずや。吾人の説かんとする點は、則ち此の五大分別あるは、則ち五ヶ圏を分立して、五元首を置きて、五ヶ聯盟政體を行ふ可く。天より既に明示せる以故ならずや、然り而して文武の盛なる、歐羅巴と雖へとも、將た亦た富強の世界第一たる、亞米利

一七
加と雖へとも、人類の等差ある可からず、貧弱なる亞弗利加人と雖へとも。吾人等人類の同族にして、劣等視する可らず、五元首長を以て、各國平等權利の上に、交通行政を行ふは、則ち相互に同じ。地球上に同棲せる因縁ならずや。五大國五元首長は、互選投票に據り、五人の内より、五ヶ年間の大統領を設置して、平等

一八
権利の行政を行ふ可く。天か則ち五ヶ洲
を現出存在せる以故なり。

第四編

第三章 總論

地球上に、五色人種あるか故に、五大協同一
致、人種の等差を論せず。平等の權利人道
を重んじ、一種同人の行政を行ふ可しとは。
地球に、五大洲あるか如く、五色人種あり世
に云ふ。白哲人種、黄色人種、黑色人種、赤色

人種、何々人種とは何んそや。白色人種賢ならず、黑色人種暗愚ならず、此れは皆な、地理の變化に依つて、其色を異にするは論なきなり。されは其人種の色別に依つて、一方に偏し白色人種は白色團、黄色人種は黄色團と、區分する時は、既に相敵視し。現今世界の輿論は、遠からざる内に、黄白の一大衝突あるを説く者あらずや。此れ則ち人

類の差別を云ふものにして、人類は宜しく色の黒白を問はず、一指同人、四海兄弟同胞たるものにして、彼我に等級を置く可きものに非らず。毎年四季の季節のあるか如く、春夏秋冬、榮枯盛衰は、各國に實現して立證するか如く。亞弗利加も、盛んなる時代ありしを思へ、而して五色人種は、五ヶ國土に據つて、國土風俗人情習慣を異にするは

勿論にして、其國々には、其國適切なる政治を行ふは論なく、只た世界五ヶ國は、相提携して、敵視す可らず。五憲法の制定には、國防及軍備を、一切撤廢する事を約し。各國相親和する事を旨とする、協同一致政策の基に、確約を樹立するものなり。

第五編

第四章 總論

地球上に、五種の動物あり人禽獸虫魚の五差別あるか故に、人類は東西洋の別を問はず、國土の盛衰を云はず、一致團欒して五基行政を行ふ可しとは。

世界に、各種の動物あるか中に、人類は其長

者にして、禽獸虫魚は、人類に隨族して、食物
となり、人類社界の自由に任せたり。然り
而して人類は、動物中の優秀者にして、相互
に敵視相殺傷を行ふは、如何、鳥類社界と雖
も、鳩に三枝の禮ありと聞く、雉子の聲や、夜
の鶴、風聲鶴涙とは如何。人類以下の劣族
の、鳥と雖とも、相親み相助けつゝあるをや。
五音の通する人類は、大同團結して扶助す

るこそ、人倫の道ならずや。吾人人類は、相
互に老幼病者を勞わり、國の盛衰は、四季の
推移するか如く、天地廻轉するか如く、數理
の原理にして、決して侮る可らず。動物に
五種の別あるに則り、五基行政則ち五ヶ國
共通政治を行ふを以て、大世界の平和を確
立するものなり。

第六編

第五章 總論

大地球上に、五色あり、五行あり。小地球の人類は、五體を有し、五指五臟を有するか故に、五音を發して、五大洲の五人種と、五大同盟を行ひて、五堺兄弟行政を以て、大統主を置き、五ヶ年更代の、順環行政を行ふ可しと

二八
は。天上五色あり、地球上五行あり、五基の
大切なる以故を説きたり。小地球とは、吾
人人類の、人體か則ち小地球にして。大地
球か間斷なく、廻轉するか如く、小地球も同
しく、一分間の休みなく、廻轉しつゝあるな
り。而して人間の頭部は、則ち地球を形ち
造りし如く、丸く顔面は、大天と等しく、顔に
五色の色を表はすものなり。怒る時赤く、

愁ふ時白く、心配の時青く、喜びの時は黄色
なり、落膽消沈の時は、黒色たり。それ天の
時、地の理を鑑みて、大地球を合同一致せん
と欲せは。先つ吾人等の小地球を、研究せ
よ、吾人人類は五躰を有し、五指を有するは
如何。五指か則ち五洲政治の元理にして、
五指の長短あるか如く、五國に長短あるを
思へ、胸に五臓を蓄へたり則ち、肺の臓、肝の

三〇
臟、胃の臟、腎の臟、脾の臟、あるか如く、此れ則ち五府にして、人體の樞府は、五府ならずや。顔面に五感あり、視感、聽感、五音を發するに、惡臭を防ぐ鼻あり、天に、日月あるか如く、左右の眼は、則ち日月たり、口に五音を發して、吾人人類間に共通の便利を與へあるか故に。五大洲の五人種と、五大盟約を結び、五堺に國別あると雖も、兄弟の如く、五指の如

く、相離れずして、左右の手を合はして、十分の平和同盟を結び、地球の樂土たらしむ可し。

大地球の、日夜間斷なく、運轉するか如く。小地球の、吾人の人體も、血管の廻轉するか如く。世界共通の、五ヶ圀の五元首を、統一して、協同一致の大統主を置き、圓轉活達の五基行政を行ふて、五ヶ年毎に、大頭主の更

送を行ふて、日進月歩の文花の進運に據つて五ヶ年毎に、適應の改良を協同的憲法の上に、加ふる事を得る方法に基き。五ヶ國協定の圓滿なる、協和政策を樹立するか則ち、世界の大平和を、確立するものなり。

人道

人道とは、今や世界各國か、人道の重きを説くも、人道は如何なるものなるかの、理由を説くもの尠し。吾人太陽茲に謹みて、人道の踏む可き、道理を説かんぞす。人の此の世に、産れ出て、幼より長ずるに従ひ、各自の志望に向つて、人生の行路を急

きつゝあり、其目的や、致富に將た、名譽に歸する處は、衣食住の完備にあり。此の地球上の、各種人種も、皆な一樣に、其の目的に進行しつゝあり。又手各々の人種の居住に、東西の別ありて、國を境界して他の國よりも、己れの家を基こして四隣の人家に超越して居住し、以て他を劣視せんこ、企てつゝあるあり。各國々を異にすこ雖こも、目的

は同一の徑路にあり。然り而して、我等の住む世界に、獨逸國ありて、其皇帝カイゼル君は、軍國主義武力を以て、歐洲の天地を、併呑して其覇者たらんこ企てたり。此場合隣國の、英佛か默從するものにあらず。忽ち大戦亂こ成つて、貴重の人命こ、財産を、蕩盡して、敗軍のカイゼル君の得るものは何かある。現今の獨帝の悲惨なる境遇こ、獨

逸國の蒙る、慘めなる有様は如何。反つて非望を企てざる、戦前の地位か、遙かに優秀なりしに。茲に至りて獨帝の、非人道的の行爲は、成功す可きものに非らざる事を、證明するものなり。獨帝か獨り歐洲の天地を、統一せんご欲せは、其他佛、英、ごても同じく、其覇者たらんご、望むは等しく。一世紀の昔、ナポレオン君か、既に其前轍を踏みし

を。獨帝は其故人の教へに、鑑みて、前車の顛躓するを見て、後車の戒めご爲せは、今日の如き、獨逸國ごはならさりしに。嗚呼非人道は、恐る可き事なり、然らば人道ごは。さし向ふ人の心は我か心なり。己か望みは人も望まん。人道の教へは正しき事をなせ。人の道をは我れ歩むなり。

則ち獨帝の五十年の非望の計劃は、一朝に夢となつた。獨帝の望む處は、佛、英も同じく、同一の希望はある道理なり。然らば先づ己れの望み起らは、同時に他人も同様の目的あると思へ、自分住む家、自己の衣類、自己の食物は、皆な他人の手に據り、造られたるものなり。我等か歩まんご、欲する道路は、則ち他人又は故人の、造り與へられたる

ものと思へ。己れの欲せざる事は、人も望まず、己れの望む處は、他人も則ち他國人も、望むものご、思ふて、先づ人の心を前にして、共に歩まんごするか則ち、天下の人道なり。所謂それか天下は、天下の天下なり、自國富強ならんご欲せは、他國も同志なる事を慮りて、獨占の利益ある可きものに非らず故に。今日の隆盛は、明日の衰運ご思へ、天下

の運命も、同じく廻轉して、晝夜の推移する
か如し。古語に興亡盛衰と云ふ事實は、各
自の認むる處ならずや。故に各自望み起
つた時は、則ち其進路は、他人の道を歩ま
る可らざるものごして、先づ他人の迷惑に
ならざる範圍に、進む事を忘る可からず。
世に耶蘇教主のキリストあり、佛教の釋尊
ありご雖ごも、素ごより、神も、佛も、吾人が即

ち神なり、佛にして、唯た其行ひの、善惡に據
るのみ。然らば吾人が神ごなり、佛ごなら
ば、他人も同様ならざる可からざる、道理に
して。茲に自己より劣等なる、不覺者、無學
者なる、他人に對する時にも、彼れは吾人よ
り劣らは、猶更教へ導きてこそ、誠の人道な
り。英人が印度人を、屬國視すれごも、素ご
印度國は、釋尊の宗教を叫唱時代は、英國は

如何。日本人か、現今支那人を、彼是誹評す
れ共、支那は中華國として、盛んなる、文華國
たる事は、遠く歐羅巴も、及さりし昔を見よ。
然らば人の道は、則ち人の道と心得て、先づ
人を、前きにするか本旨なり。斯の如き事
は、千百年の昔より、知れきつた問題たか。
それを彼我共に、知りつゝなせ、行はなかつ
たか。今や時來つて世界の舞臺で、前獨

帝カイゼル君か、大芝居をして見せて、始め
て目の醒めた如く。北米合衆國のウヰル
ソン氏か、宣傳せらるゝに據つて。各國人
も、集合して、人道の本義を、唱道して立つて、
居なから未だ、真正の人道を實行せず。米
國は米國の爲め、佛國亦た本國の爲め、英國
自己の國を本旨とする、問題のみならざる
はなし。故に吾人太陽か、此の人道を高唱

する以故なり。本編世界平和論旨を、再考して世界各国の人種は、平等に、自由に、平安に、協同人道の實施を、共行せられん事を、希ふなり。

立ち向ふ人の心は我心なり

人の笑ませは我も楽しき

世界五種の人類は、同一平等のものにして、共に互に、世界の樂土をして、樂園たらしめ

よ。草木てさよ、四季の季節を過たすして、花を競ひて、咲き樂むてはないか。此の人道を、嚴守する時か、樂土て、非人道を行ふ時は、總ての、破壊時代なり。それは一家にいても、一國として、同しく。人道は一刻も忘る可らざるものなり、人道は人間の大本なり。人生か本分なり、文明開化の本趣なり。

人生の本分

吾人等、人間の、此の世界に生れ出てたる、本務は、何にか、人類は此の世に如何なる、仕事を爲す可き歟。吾人は國家に對し、有益に、役立つ可き、本務は何に歟。樹木必ず花を、開きて。世界の人類に、其美質を彰揚したり。吾人は、只た生きて、衣食住の完備を了

四八
へて、消滅すればよい歟。吾人の本分を辨
へ居る者、尠しと云はん。吾人には吾人、相
應の本領あり。則ち人生の本分は、自己本
具の徳を發顯するにあり。假令は、我七千萬
の同胞は、自己本人の姓名は、如何なる意義
ある歟を、辨へ居らさるか如し。唯た親よ
り名を、與へられた而已、吾人の呼名は、符號
のみ、何の意味も無しと。嗚呼何たる不用

意そ、吾人の名も知らざる者、何をか爲さん
と。去なから各自は、其目的に向つて、驀進
しつゝあり。さて茲に至りて吾人太陽は、
常に都市に於て、日々數萬人の、人の顔を視
ふも、諸人の目的は、近頃歐米流行の、拜金宗
にして、殆んど見る人々は、一途専心、金満家
たらんことを、希ふ輩のみ、然るに其數萬人
の、顔面には、完全に金満家となる、人相は幾

人もなく、全く其身に金満家の資格を、備は
らざる輩か、致富者を夢みて、方向の違ふ方
面へ、驀進しつゝあるを見て、慨嘆に堪へさ
らん。人生は素直、出世産と同時に、既に其
身に適應したる、則ち天賦の運命は、確定し
てあるものなり。然れども、其の上に、一層
の勉學に據り、最大の成功あるもの也。故
に先づ吾人の本務、本分を悟り、適當する、職

業に従事しなは、開運發達するものなり。
假りに自己は、新聞の如き、社界の指導者こ
なつて、世を裨益せんこ決心して、是れに従
事しつゝありこせよ。其新聞事業は、日々
に、社界を指導發達進歩せしめつゝあるか
如く、なれども、我國の新聞紙は、只た社界の
新事實を、紙面に映寫してあるのみ、世道人
心を、啓發教導するの、文字甚だ尠し、稍もす

五二
れは、社界の裏面の、罪惡を摘發するを、本務の如く、心得居る者もありて新聞業の、本分を、悟らさるか如き、輩のあるあり。其他雜誌、新刊書籍に、至りても。學者は書物の賣利を、目的として、誠意正義人道を、教導する、書籍は稀なり。則ち學者の本分を、悟らさるか如し。近時澤山に、博士の濫造あるも、其博士諸先生達の、現代に處して、混沌たる、

世界風塵を、排除し、思想界の墮落を、救濟する文書甚た尠し、自己の學位を高めても、世道人心を、開發教化せられる、學者も尠し、所謂學者の本分を、悟らさるか如し。希くは其論旨說趣を、實現せしめて、公益を計られたい。假令は、寺院の僧侶達にしても、宗教家になりなから、其本務に實錢躬行する者、甚た尠し。全體我日本には、完全なる宗教

なし、三千年、以前の釋尊の佛教は、現代の如き、進歩せる、歐米と、將た又我國との間に、飛行郵便の行はれる、時代には、古昔の宗教は間に合はず、耶蘇教とても、只た博愛主義、罪人に代りて、己か身を磔首する、宗教も、今日ては、古く現代に、適應する、極く簡易なる、宗教の必要なる、時代なれば、宗教家の本分を、悟らは、時代相應の、教義を、説法修行ありた

し。全體我國には、信教自由なるか故に、反つて無宗教國の觀あり。我國には一定確立せる、國教の樹立は、目焦の必要なり。かるか故に我國の學者、博士、宗教家に、望むらくは、自己本分を發顯し、其德行を實施せられん事を。其他の諸士の、自己の獨占的、抱有せる本分の德行を、發見實行せられん事を希ふ。

一家の平和及一國の 平和人種平等論

吾人等各自一戸の主人と、一國の皇帝又は
大統領と、全世界の大元首とは、大小の差異
ありと雖も、皆な是れ同一の理にして、前
編、世界平和論を、説きたれば。其原理一家
の平和を、最初に説く可き、筈なれども、茲に

更に一家の平和を、説かんことす。
 一家の平和は、吾人の一日片時も、缺く可からざる、大切なる大問題にして、一人の不平は、全家に及ほし、全家の破壊となる。假令は茲に、全家族、親二人、主人夫婦、子女二人あると、假定せよ、此の六人の年齢は、既に六人共に、相違せるを發見す可し、老親二人は、既に全盛の時代を過ぎたり、主人夫婦の年齢

は、中年時代で、尤も隆盛なる働き盛りの時代、二人の子女は、幼少の時代にして、各その學問勉強時代なり。然り而して、前編世界平和策に、五大強國、歐羅巴、亞細亞、南北亞米利加、大洋洲、と。此五大國と雖とも、同様に、盛衰の時代の相違は、全くある可き、道理ならずや。人種平等論も、同じく、現時白種人の、隆盛時代あれば、黄色人種の、中華文華の、

盛大なる時代もありし。印度の黒種人の、
佛教開祖、釋迦如來の時代は、今より三千年
以前なりし。其當時は、白哲人種、則ち歐羅
巴人は、如何、朦昧の時代なりし、斯の如く、皆
な盛衰を異にするは、天地宇宙の、數理なれ
は、人種平等は、古今を通して、蔑視す可きも
のに非らざる事を、覺醒せざる可らず。而
して此の一家の、平和か尤も、一日も破る可

からず、主人不平あれば、妻の心配、兩親の不
平もあらん、幼少の小兒とても、不平不和も
あらん、されど是等の、不安不和を、主人は鹽
梅加減して、無事平和に、一家庭の圓滿に主
宰する可き、主人の役たり、是れ諸君等の、希
望ならずや。一家一國、大地球の、一國ごと
も、右の如く、人種の差別なく、平等行政、然る
可き、眞理ならずや。假令は、吾人の右の手

六二
を、開き見よ、五指あり、それ五指とは、親指あり、吾人中指あり、妻指あり、子指あるか如く、長短相同しからざる指か、相集り、離る可からざる理由を、證明せしもの也。長者は短者を、援助し、長者は幼老を補佐して一家の平和を保つ可きものならずや。大世界を通して、優強のみ、揃ふ可らざるものなり。一家の不和不平は、家を亡し、損失を招き、不

愉快は、病氣を起し、遂に亡家破滅を來す可し、而して一國も同しく、大地球上の、五大洲も、同じ道理にして。既に現時の獨逸國を見よ、英、佛を見よ、不平不和の爲めに、三千萬億の財と、一千萬の人命を、死傷せしめしそや。嗚呼、不和不平は、世界に、將た又一家にさりて、重大なる、禍根を生むものならずや。茲に吾人太陽か、一家を修むる、家憲を教へ

んごす。されは、前陳五指か、則ち五語、五訓を、誨へある事を、古今の學者は、未た是れを知らさりしか、故に、茲に説明せんごす。親指を指して、誠ごす、誠は正なり、親なり、親しむなり、五指の親なり。人指指を、勤ご云ふ、則ち、働き、勤む。中高指を、獨ご云ふ、則ち獨立なり、主人なり、獨立支配して、他を援く可き、任務あり。

紅さし指を、儉ご稱し、儉約、質素を、旨ごして、子指を、讓ごなし、子は即ち、讓るなり。右五語五訓を、家憲ごなし、誠。勤。獨。儉。讓。の、字意を、廣解して、家を修め、一國ご雖へごも、其理解を以て、國政を、所理す可きものなり。人種の、差別ある可からざる、眞理をも、發見せよ。

家憲、大原則、誠。勤。獨。儉。讓。を、廣解説明すれば、

誠は、正なり、親なり、先祖なり、正直なり、正義なり、親は、一家の元首にして、親の子に對する、恩愛の情は。

以津輪利の多き浮世に只一つ

子のかわいさは誠となりけり

眞實誠意の、親指のあるか如く、一家一國に、大世界にも、此の誠意、正眞、正義か、家を修む、國を修む、大世界を修むるにも、大原則にし

て、相互に、權謀奇策を以て、一家も、一國の外
交も修むる事は、出來難く、誠實は、家を修む
るの。第一則にして、親指は、其理を以て、一
本の棒を、握るにも、他の四本の指も、只一本
の、親指にて、握掌するものなり。故に誠
は、正にして、萬事の、元なり。
勤の字、則ち人指指は、指の中で、第一番に、働
く約束ありて、何事を爲すにも、第一歩に差

六八
出て、働くものなり。一家を修むるに、當りて、正義を基として、先づ各自の、職務に、勤め、勵む可し、一國一家を經理するには、先づ經費を造り出す、任務あるか故に、一定の職務に勉勵す可き、是れに依つて、財寶を集め富す、責任ある事を、表示せるものなり。

三番目は、獨[◎]なり、獨は、獨立なり、一家長の、必要なるか如く、中高指は、五本中の、最中に高

きは、獨立せよとの、教へある、主人役は他を凌ぎ、丈け長く、五指の中間に、位して、五指の長を、司り居るものなり。一家に家長の、必要あり、一國に皇帝又は、大統領の必要あるか如く。大世界も、此原理に基づき、五大洲聯盟協同して、元首を置き、五ヶ年更代す可く、吾人の手の指は、是等の教へあるものなり。中高指は、家長にして、他の四本の指

を、補佐して、一家團欒平和す可き、獨の字は、
此理に基きて、獨立を唱ふなり。
儉[◎]は、儉約なり、一家を、經營整理するには、儉
ならざる可らず、二番目の人指指か、如何に
働き、澤山の富を造るゝ雖も、儉の字を守ら
ざる時は、家は破滅の基となる可し、勤には、
儉の字を、忘れ離れてはならぬ文字なり。
俗説に、此指を妻指とも云ふ、妻は、一家の補

佐役、主人に續つく、大切なる役目を帶ふる
ものなり。又た有る説には、紅指指とも云
ふ、紅は、赤なり、赤き心は、赤心忠實の意義に
して、妻の主人に、勤仕する事、赤心を以て、仕
へて殆めて、同意同志同棲して、讓の字を生
むものなり。
讓[◎]は、子なり、世繼なり、讓は、謙讓なり、子は、
總ての指に對し、謙讓なり、世に處するに、傲

七二
慢無禮ては、通られず、謙讓を以て、人に接し、讓を以て、家を整へ五指最末の子指は、則ち子息にして、家を譲り受ける、任務を負ふものなり。而して讓の指は、最も何れの指よりも、幼少にして、此れを小指と唱ふなり。以上説く處の、五訓は、則ち一家の、大憲則にして、此意義を、家庭に、説明應用せは、不平なく、不和なく、圓滿なる家政を、整頓する事を

得るものなれば、此の原則を、日に日に又日に、家内一同服膺して、一家平和の根柢を、確立して、我日本のみならず、何れの國、何れの世界を問はず、五大洲の各戸、家庭に、宗守として、適用せられなは、一家の家庭圓滿を爲す可き、一國の平和も、此原理を應用せられよ。

時代要求の宗教

人類は、天の下、地上に、生息するの、人間にして、天、人、地、の意を、鑑察智覺するを以て、現代人類か、宗教の、極意を、爲す可し。

天意無偏愛。地惠生萬象。人徳全地球。
天地人の、教は、吾人人類か、此の世界に、生れ出る時に、左右の掌に、所持し居るは、則ち、廣

大無邊なる、大天の恩愛を、知る可く。大地の、惠育は、新羅萬象を、殖生繁茂せるの、原理を悟る可く。世界の人類は、人生の本分たる、本具の、徳行を、地球の全面に、顯はす可く、天人地の、三紋を、吾人等掌中に受け得て、生息し居るものなり。

此の理を、智覺して以て、吾人の責任の大なる。天人地の意義か、則ち宗教の原則なり。

天地人の原理を、悟るこ、同時に、左右の手に、五指あるを見よ(前編一家の平和一國の平和に)説くか如く、宗教に五指の教へを示す。五指は、何か故に、長短あるや。其の眞理を説きて、吾人等の宗教に、學ひ行ふ、教義なりと悟らる可し。親指を、誠とし、正なり、信なり、親なり、天なり、眞なり、恩なり、愛なりとし。人指指を、勤と云ひ、則ち働きなり、動きなり。

七八
天も動き、地も又動き、人間五體の、内部則ち
心臓の動きも。地球の働きも、一寸間たも、
動きの止まる時なし。故に吾人も、自己の
職務に勤め、勵み、適度に動き勤む可きなり。
中高指は、獨なり、獨は、獨立なり、此の世界に、
生れ出る時、獨なり、死に逝く時も、獨なり。
此世に生存するに、先つ獨立す可きものな
り。一家を立て、獨立して、花を咲かす、覺悟

を要す。草木皆な、獨立して、四時に、各自獨
特の花を、開き、競ふか如く。人間ごしても、
各自獨有の、技能を、發展して、世界に其美德
を、競ふ可く、獨立し。人生本具の美德、實行
は、天人地の眞理に、合致せる、人道の踏む可
き、宗旨の開花す可き覺悟ある可し。
紅指指、是れを、儉。こ云ふ、質素に家を修め、勤
に勵み、儉に、其身を修め、亦此指を、妻こも、云

ふ、則ち妻帯したれば、家計に注意、儉約せざる可らざる事を、教へある故に、之れを儉と名づけ。

次に小指は、則ち小供なり、是れを、讓と云ふ、讓は讓るなり、獨立一家を爲し、天の恩を知り、地の恵を知りて、一家を整へ、妻帯して子孫を得て、無事安穩に、子に世を讓り終る者なり。

世に處するに先つ、親の恩を知りて、自己の職務に勵み勤めて、始めて獨立開花し、妻帯し儉を、宗として家を修め、讓を以て、人と交わり行くを。宗教の極意人道の教へと。既に天より此の五指と、天人地の教へを、諸手に授かり得て、現世に産れし事を、知らされは、人にして、人に非らざるもの也。吾人等、手中に授得の大眞理、三紋と、五指の

八二
教法に、則り。人道の大宗教義を以て、時代
要望の宗教と爲す。(全世界的大宗教論編
纂中)

日本の日本魂

歐米、人か、日本の大和魂は、如何なるもの歟
と聞く。日本は、廣大なる支那と戦ふて、勝
ち。尨大なる露國と、戦争して捷つた。全
世界の國々か、矮少日本の強きに、耳目を欽
てた。爾來日本は、世界の、強國の數に這入
た。世界の國々は、日本人の強きは、如何な

る理由か。風説に聞けは、日本には、日本魂あるか故に、戦へは勝つこ。其處て以て地球の、各方面から、日本の日本魂を、見に来る、客か出来た。来る人々は、誠の日本魂を見て歸る人幾人有るか。今將た日本に、日本魂あるや否な。一體全體日本魂なるものは、如何なるものか、我が古碩本居氏か。敷島の大和心を人問わは

朝日に匂ふ山櫻らかな

こ、現今の日本人に、其意を眞實に、胞懷して居る者、幾人あるか。過くる年政府の役人共か、大切なる其歌を、煙草の名として、日々夜々に、煙にして居るてはないか。嗚呼、我日本魂は、煙こ、灰に、なつて居るてはないか。然しなから、それは、戯談として、誠に以て、日本魂の説明こ、理解こを、外國人に、教へる人

も尠し。我日本の強きは、昔しの武士道の、
教訓の賜もの也。日本の武士は何故に、二
本の劍を、所持せしか、曰く、大劍は則ち、正義
人道を踏むに、逆邪を斬り拂ひ、我國家の爲
めに、忠節義膽快腕を、揮つて、正義人道に、活
歩せしもの。或は強悪不正なる兇漢は、拉
碎し、哀憐なる弱者を、援助するに用ひしも
の。短劍は則ち、大和魂にして、正義人道を、

踏むに當つて、一朝自己に、過失あるを發見
せは、即坐に、己か非行を悟つた時は、短劍を
以て、自裁自刃する。世の上長の懲罰を、受
けさる、世界無比の、美風なるは、我國獨得の
美習なりしも、今ま將た、何處にか、其遺訓を
胞持する、我同胞兄弟や、幾人ある。近代世
俗か、芝居に、活動に、歐、米、の風俗、流入して、我
美風も、既に、風塵の如く、滅亡しつゝあり。

誠に、慨嘆の至りならずや。近頃、我國の精
 心界は、大和魂もなく、思想界の風潮は、日に
 月に、只た、歐、米、の風習を、模倣するにあり。
 近時、世界聯盟、問題に續いて、労働者、資本
 家の、相反目して、時局を騒かせつゝあり。
 何たる、戯事なるか。此協調問題を、米國に、
 開催して、論議すこ雖とも。其米國を見よ、
 全國が舉つて、選任せし、大統領ウヰルソン

氏が、平和會議の、大舞臺で、取り繼めた聯盟
 規約をも、同國人は、是れを認めぬてはない
 か。正義を唱へ、人道を尊重する、米國人は、
 言行矛盾するてはないか。假りに信任せ
 る、大統領か、折角世界の、講和の議場に於て、
 確約せる、重大なる、而かも、諸外國迄、一致し
 て、誓約せる大事をも、其國民か認めぬこ云
 ふ、非人道の行爲は、世界各國の等しく、驚愕

九〇
する處ならずや。其正義人道を、高唱宣傳する、米國は、我日本人に對し、移民問題に於ける、人類の等差を唱へ、區別するは、何たる、非文明、非人道ならずや。我日本の、朝野の、政事家か、前後の、判斷もなく、非人道を、蛙面水の、平氣に行ふ、米國へ、勞資問題の、仲間入り爲したり。然しなから、仲間入りも、よいこして、此處に於て、充分に、世界労働者の

誤れる、思想こ、資本家の、仁俠喚發を、叫はさる。世界の労働者か、資本家を、尊重せず、資本家か、労働者を、蔑視する時代は、則ち、蒙昧暗黒時代なり。是れは、之れ人道も、正義もなき、自尊蔑他は、人類の意識を、捨てたる、非文明、野蠻なる、非人道にはならさるか。此處に至つて、我國、獨得の武士道を、思ひ出さるか。日本魂を、思ひ起さるか。世の

中は、榮枯盛衰は、車輪の如く、今日の資本家は、明日の労働者たる、労働者、豈に、愁ふ勿れ、資本家又た、労働者を、勞わる可く。勞、資、は、車の兩輪の如く、相互に、親和す可きものなり。近世各國に、宗教なきか、人道を重んずる、宗教もあらは、斯の如く、世の、精心界は、墮落はせましきに。假令、歐、米、は、宗教なく、人道なく、正道なき、國の、人心模倣は、避けたき

ものなり。日本には、日本魂あり。○明治天皇の、五誓言に、外國の、長所を取りて、學へご、訓旨せられたるそや。惡習の模倣は、今少しく、見合せたきものなり。茲に、労働者ご、資本家の、差別を、説かんと思ふ。労働者は、何にか故に、資本家を、敵視するか。假りに、資本家は、驕恣僻傲、尊大豪奢を、極めることして。何か故に、それか羨しきか。然らば、

何故、自己か、資本家とならざる。労働時間は、八時間の請求然り、八時間働きて、八時間休息して、八時間寝ると云ふ、成程立派なる定規なり。此等の事は、吾人太嚮か、二十五年以前に、歐羅巴に、在學の當時、既に、八時間労働問題は、姦かりし。爾來世界中か、八時間なら、日本も、加盟してもよい、として、我日本の今日迄の状態は、十三時間も働きつ

ゝありし。故に今一時に、八時間制は、如何かと思われる。或は九時もよし、十時間もよし、是れは、此程既に、我か代理者か、米國へ、使ひして、取極められしに據り、それてよいとして。近頃内地の各所に於て、労働者は、資本家に、向かつて、一時に、時間、制限、或は、賃金値上を、叫はれる、労働者諸君あるか如し。何故に、自己の慾望起らは、穩やかに、資本家

に、温順に、請求せざる。資本家も、亦た、物價騰貴の、今日は、労働者の立場を、鑑みて、相當渡世する方法を、取らざるか。我日本人の、美しくしき、習慣たる、資本家を、主人の如く、從業者は、是れを敬ひ。資本家は、又た、從業者を、家族親戚の如く、愛くしみしか。是れか人類の、行ふ可き、人道ならずや。何んか爲めに、勞、資、相敵視するの、要あらん、敵視反目

して、職に、従事して、完全なる、仕事の出來上るものに非らず。資本家は、慈愛心を以て、労働者は、敬慕心を以て、職責の完全を、得るものなり。吾人は、切に望む、相互に、慈愛と、謙讓を、行ふ可く、而して、眞の、我帝國の、國利民福の、基礎を、確立せられん事を、勞、資、諸君に、希ふものなり。吾人か、時代要求の、宗教に、説くか如く、則ち、天人地の、教訓の如く。

資本家は、天の意にして、天意は、偏愛なく、一列平等に、労働者に對し、天の如く、父の如く、慈愛に。労働者は、地恵の如く、母の如く、地の恵みは、新羅萬象を、生育するか如く。天の意を知り、地の意識を以て、勞資の、和合は、天地の如く、一致以て、職務を、勵む可きものなり。日本魂は、日本獨占の、美風をして、此際、大世界に、顯揚せられん事を、我同胞に、望

むに當つて。

我皇祖、伊勢大神宮に、御神體として、安置し奉る、三ヶの神器を、國歌として、讚讀し奉れは。

睦嘉居見世、那樂久、以能知遠、滿壽
可賀身、俱茂良而、富貴農、登九越、
天羅參。

神鏡は、正義人道、正直にして、其誠を照す。

神劍は、吾身の利權にして逆邪斬り拂ひ、而して、己れの悪心をも斬り捨て可き。

寶玉は、則ち國富にして、自己を、富にして、自己を富ますに悪意邪心を、斬り捨てよ、鏡の如き、正義人道を行ふ可く、國を富ます事を、教へたるは則ち我大日本帝國の國寶、日本の大和魂こそ、申上げ奉るなり。

世界平和論

歐羅巴洲か、五ヶ年に渉る、悲惨なる、大劇戦は、平常に復すと、雖へとも。世界には、眞の大平和未だ來らず。不文明な、野蠻な、不覺者共の、輩か、國の城壁を造り、不經濟な、殺人軍艦、不生産の、殺人滅生の兵隊等、總て、極悪非道の殺生の、兇器を、各國か競ふて、造營し

一〇二
て、多數あるを、強國と唱へ、年々歳々、數億圓の、經費と建造費とに、費す處の、貴重の金額と、貴重なる、人命とは、結局、煙となり、灰となるのみ。最近、獨逸の、カイゼル氏と云ふ、役者か、大芝居を、行ふたのを吾人等か、見物したてはないか。世界の、大劇戰の、結果は如何。勝つた、英佛、如何、敗軍の、獨塊は、如何。双方共に、利益は無いてはないか。三千億

一〇三
の金と、一千萬の人命を、煙と、灰にして、彼我の間に、如何なる悲惨か、残りしか。戰時の白耳義國を見よ、一國の帝王すら、宿るに家なし、食なし、立ち居る處も、なかつたと云ふ、悲話は、忘れさるか。假りに、米國と、日本か、火事場的、利益を占め、得たとして米國か、莫大の金貨を、得たとして、其金は、矢張り、歐羅巴に、注ぎ入れて、米國には、空位の、優越金貨

一〇四
國となつて、威張つて、見た處て、英人や、獨逸人、將た又た露國人が、飢餓に迫つて、居るのを、米國は、見て居られるか。既に、米國は、敵國の、獨逸へ、或は、英國へ、今猶食料を、送りつゝあるてはないか。此悲惨なる、大芝居を、見物しても、眼は、醒めぬか。戦争は、敗けて益なく、勝つと、雖へとも一時は、虚勢に乘して、戰勝國と誇つても、只た、一時のみ。昔の

役者、ナポレオン君、を見よ勝ち誇つた、結果は如何。セントヘレナの、孤島に、幽閉、蟄居したてはないか。最近、普佛の戰役に、アルサス、ローレンスを、佛國は、獨逸に、取られて今時、佛蘭西に、取り戻したてはないか。古今の歴史を何んて、讀まぬか。假りに、讀んでも、何故に、覺らさるか。興亡盛衰は、巡環するものと思へ。地球は晝夜間斷なく、廻

一〇六
轉するが如く、世界も、國も、家も、廻轉するものなり。生者、必滅、會者定離、利害得失。古語の如く、生れた者は、必ず死し、合ふ者は、屹度離れ、利するに、害あつて、得たものは、必ず失ふの、源理を、知覺せざるか故に、軍艦の必要あるが如く、國防の兵卒か、必要と思ふなり。覺醒せよ、人間共、空を飛ぶ、鳥も、不自由なく、大空中を、我天地として、歌ひ舞ふては

一〇七
ないか。智惠のある鳥は、定めて、天の上より、歐羅巴、今回の、大戦亂を見て、定めて、笑つたてあるふ。亦た悲しんたてあるふ。鳥てない、大智覺ある、人間則ち、人禽、獸虫魚の五族の中の、動物中、第一番の、長者たる、人類か、此の夢の、未また、醒め得ざるか。嗚呼野蠻なり、非文明なり。大天にある、太陽は、光輝溫暖、地球を、照愛すれども。人類は、未ま

た蒙昧闇黒なり。醒めよ、悟れよ、人間共。
 吾人人類の組織は、此大地球と等しくして、
 吾人人體は、小地球なり。大地球と等しく
 五色の五原素をも、備はつて、一分間も、休む
 時なく、活動してある、神であり、佛であるな
 り、耶蘇教のイエスか、神なれば、吾人も、神な
 り。佛教の釋尊か、佛なら、吾人も、佛なり。
 天地地球間に、造物主か、あれは、則ち吾人、人

體の造物主もあり。吾人日本人か神なれ
 は、歐羅巴人も神なり。米國人も、亞弗利加
 人種も、神なり、佛なり。只た人生は、五指の、
 教への如く、老若幼少あるか如く、長短ある
 か如く。時に歐羅巴か、盛んで、亞弗利加か、
 時代に遅れてあるものなり。赤道直下の、
 印度人は黒く、歐羅巴の、北極は寒く白き人
 種かあるか如く。是れ皆な、土地の寒暖風

土の依つて以つて、差を示すのみ。吾人人種色は異れども、人間は人間なり。然らば則ち、歐羅巴人の悲みは、東洋人も、共に、悲む可きものなり。今回の、大戦亂の、結果を、遠隔の吾人等、日本人は、歐羅巴全土の、悲劇の、戦跡を見て、同情を、與へるてはないか。米國亦た、飢餓に、苦しむ、獨逸國へ、同情するてはないか。彼我共に、人類なれば、彼我共に、

人道を、尊み行ふ可きもの也。前述の如く、吾人等は、彼我共に神佛か備はつてある、戦勝國の吾人共、則ち、英、米、佛、伊、日、の戦勝國か、相集つて、五國聯盟して、立て、戦敗悲惨な獨逸や、奧土利、匈牙利やは、勿論、群小の國々を壓迫するよりも。吾人人類は、一番、大奮起、大覺醒し、空前絶後の、大英斷を以て、戦敗國をも、教導して、世界中の、國々は、大同一致協

和して、吾人太陽の世界平和策に説く、如く、
全世界を、自然天より、五大分洲あるか如く。
五大州、五大國、を、分割して、五大聯盟して、軍
艦や、兵隊等の兇惡なる、殺生道具を、全廢し、
警察制度を、擴張して、五國の内より、統治者
の一國を選定し、五ヶ年毎に、改選し、時世適
應せる、政事を執行する事を、現時に於て、處
分、討議、研究せらるゝ事を、世界各國の、覺醒

ある、大政事家に望む、焦眉の大問題なり。

東洋の國是

世界大平和論に據つて、以て世界大平和策を、樹立せんと欲せば。此の地球を、五大分割する方法を、講究せざる可らず。五大分割は則ち、自然天然の五大分洲たる、歐羅巴は、英、佛、伊、獨、澳、露等其他、小國をも、一團とし、全歐羅巴は、則ち歐羅巴洲にして、大同團

聯合して、一團となし。南北亞米利加を、連結一國となし、亞弗利加、其他大洋洲等の五大區分方法は、世界大政事家の、熟議協定を以て何れか、良策方法に則り、聯結ある可く。然り而して、東洋の國是に、至りては。

我日本帝國の、國是方針は、獨逸の前帝、カイゼル君の、夢想の如く、軍國主義、則ち武力を揮つて、東洋の天地を、席捲して、朝鮮及臺灣

を統御し、追次滿州より支那、西伯利亞をも我日本帝國の手に掌握せんとするか如くに。歐米各國の政事家は、種々雜多なる、風説を捏造して、支那朝野の賢明なる、爲政家實業家を、疑憾し、法螺詭謀を弄して、迷はしめつつあるか如く。我日本の誠意ある、東洋の大平和を攪亂しつつあるか如し。然しなから、我帝國の、國民は、斯の如き、浮説に

迷はされざる可し。我日本帝國の國民は斯の如き、少なき、謀略淺慮に非らざる可し。東洋の日本、支那、印度は則ち東洋の東洋にして。亞細亞國は、地球上の五大洲中の一團國にして、支那及印度と、相互協議し、以て新亞細亞を制定樹立し。世界五大洲中の一團と爲す可き、大同團結を行ふ可く。是れを全く、東洋の國是ならんか。大平和論

に賛成協和の諸君士は、之れか宣傳實行を歐米及東洋の大政事家へ、交渉熟議の基に舉行せられん事を祈る。

北米合衆國大統領ウキ
ルソン氏に與へるの書

ユナイテツト、ステイツ、アメリカ、プレシデ
ント、ウヰルソン閣下へ、提供したき、一言あ
り、君は、今度の歐羅巴の大戦役に就き、破天
荒の勇氣と、同情を以て、戦争の仲裁を、試み
られた。吾人は其努力に感謝するものて

あるか。合衆米國の、國法として、人民の自由を重んじ、貴む、方針を以て、歐羅巴、全土、及大世界の爲めに、大平和策を、講行せらるゝものご信して、吾人太陽も、竊かに、喜ひつゝあつた、なれども。吾人太陽は、未だ貴閣下に、面謁なき者故に、如何なる、大平和策を、講説せらるゝか、疑問なるか故に、我日本の大使、侯爵西園寺氏に乞ふて、佛國、巴里、講和場

に於て、吾人の大平和論を、宣傳演説せんご、計りしも侯爵は之れを拒めり。そは、貴閣下の名案ある事を信しられたか、爲めならんご、思はれたり。故に吾人太陽は、大井に、閣下の、平和策を、信賴して、期待せしに。豈斗んや、其平和策は、未だ、大世界を、大平和に、指導する、能はざるは、誠に氣の毒千萬なり。今猶貴國、上院中に、異論者があつて、逡巡遷

延しつつある、有様御同情するの外なし。
去れど、閣下に、希望する平和策あり。此太
陽か、世界平和論を、一讀せられん事を、願ふ
のみならず。今時、世界戦争の爲めに、世界
の富は殆んど、米國に歸したり、世界戦亂の
影響の依つて以て、世界の富を、掌握せらる
の報酬として、此際貴國の、國是たる世界、平
等、自由、平和の旗鍾を以て。世上の、人類の

爲めに、完全なる大平和策を吾人太陽か、拙
論以越の方策を案出して以て世界人道の
爲めに、今一層の盡力あらん事を、再拜して
希ふものなり。

先きの獨帝カイゼル君
へ誨へるの文

嗚呼カイセル君よ、君は、歐羅巴の大陸に蟠居して、先きのナポレオン君、以越の大偉業を成就せんご、驚天動地の御計劃を、擧られたり。現代、地球上の、人類の企て及はさる努力奮闘、誠に嘉す可き。科學の發明に、其

他萬般の發明工業に、據つて世界の富を集め、世界の最優智者は、獨逸なりと、誇るに足る可き、勉強なされた事は、他の各國の驚愕して、嘆賞する處であつた。君か、キール、軍港の完成の曉に、歐羅巴諸國は、既に君が手に掌握せらるゝものと、壯語せらるゝも、尤の次第であつた。嗚呼、君は現代、世界の大偉人、豪傑に、相違なき事は、全世界は、既に認

めたる譯なり。然して君か、計畫と準備完成の曉幸ひの、戦争の幕を開く段と、相成つた、君か心密かに、待受けられた、時たりしなり。君か快腕、君か國民も、全世界に冠たり獨逸國民に、對攻する、敵なく、戦役は誠に、全世界満目の前に、適なる、勝を占め得て、快心云ふ言葉もなく、愉なる哉快なる哉。千古未曾有の大快戦を試みられて、嚙そ、御満足

ならんか。扱て反省せられよ、カイゼル君よ、月も満れは、缺けるか如く。天下無敵、勇邁なる獨軍も、長期の戦勞と、突然意外の、北米加擔參加戦に、敗をこらるの慘憺たる有様は、御同情せざるを得ず、誠に以て、御氣の毒の次第であるか。然しなから君は世界戦争の最後の教訓を残された者と、諦らめられたし。君は先きのナポレオン君の最

後の結果は、如何なりしかを、忘れられしや。吾人太陽が年少貴國に遊ひし時、ビスマルク公に、對して、歐羅巴の天地は十九世紀の末、二十世紀の初めに於て、大變動を、來す事を吾人が豫言して置きしに。其後日本に、歸朝して、明治は二十六七年頃、其豫言論を、公にせし事もある。歐羅巴の、今日あるは、自然當然にして、嗟歎あるなカイゼル君、翻

然解悟なされて、自他國民の死靈を、弔祭して餘世を全ふせられたし。

獨逸聯邦國民に告ぐ

獨逸國民諸士は、我等日本人、同志と同一く愛國性に、富み、世界戦争の上には、日人か、獨人か、他の國々の人々の賞讃されるか如く。貴國民の奮勵努力、誠に以て、世界の模範たり。醫化學等に至つては、遠く、日本人の及はざる處なり。誠心以て日人の學ぶ

一三四
可き國民なりと思ふ。さて今時、長き戦争には、打ち勝ち續けにして、其の最後の米國の助勢には、如何に勇猛なる國民なりとも長期の戦ひには、人間として勞れさるの道理あらんや。誠に以て、同情する處なり。然り而して、今回戦敗の結果は多額の償金と、尨大なる條件とを以て、將來獨逸國民を苦搏する條件あると、雖とも、是れは、遠から

一三五
さる將來には賢明なる大政事家か顯はれて、何んぞか、條件の解放ある日もあらん。決して決して他國を、恨まず、時の至るを、待たれよ。眞正なる人道は、獨り、敗戦の獨逸のみを、責めぬものなり、落膽あるなよ、獨逸國民諸士。

佛蘭西共和國一般 國民に警告

勇悼なる、佛國民よ、先年、ナポレオン君を、出
したる佛國は、歐羅巴の全土を、既に掌中に
歸するか如く、大國の露國をも追ひ、佛國の
光輝ある、時代ありしも、時代の遷變には、勝
たれず、普佛戦争に、アルサス、ローレンス、を

獨逸に奪はれたる、時しもありし。されど
國民一致、世界の他國民を、巴里に吸集して
居なからにして、富を造る點に至つては、世
界他國の企て及はさる處、古人、ビスマルク
氏も、佛國の、富を知らさりし程なりし。此
度の、獨逸との、戦役に、我日本は、御援助せし
詮ひあつて、戦勝せられた。誠に戦跡を見
て以て悲惨なる事は、獨逸を恨まれる、意恨

骨髓に徹して、忘れ難きは勿論なれども、今
暫く、古今の歴史を、考察して、盛衰興亡の理
を以て、獨逸を恨まず佛國の諸賢は、吾人の
平和論を一讀あつて、希くは、世界永遠の大
平和策を樹立せられん事を、熱望してやま
す此の儀警告に及ふなり。

英吉利帝國臣民へ勸告

大英國臣民諸彦へ、相談を試みたり。英國は世界地圖の、全面殆んど、東西兩洋を通して、英領の面積、殆んど地の大半を占め、得ると云ふても、過言てはない。それ其の各國領地を、占有するに雖とも、今日迄、餘まり、英本國へ對して、反逆暴徒の、起らざるは、貴國

民の堅實なる、誠意あるにあり。吾人太暢か世界大平和策を、論するにも、先づ第一は誠意を基とせよ。誠意に双向ふ敵なし。國に一定の國教あり、堅忍不拔誠實なる、商行爲あるは、亦た世界の認める處なり。我日本人の、大いに學はさる可からざるは、其商行爲にあり、貴國民は、決して、他を欺かさる、道徳心あるに據り、其の商工業を以て、世

界の覇者たるの、實踐躬行は、遠く日本人の企て及はさる處あり。然る處に、隣國、獨逸のカイゼル先生か、其行爲を憎み、獨逸は、英國の商戰進取の所業を、武力則ち軍國主義を以て、打ち亡さんご、既に既に、五十年以來、臥薪膽磨の功を積みたり。吾人太暢か、三十年以前、歐羅巴に、遊學の當時、龍虎の玉を争ふの兆ありしを見受たり。今回の戰源

一四四

は、英獨の競争軌轢が素源にして、而して英國則ち、貴國の誠實なる、商戰に將た獨逸の武勇に兩國民の衝突奮勵努力は世界の認め、賞揚せしも、如何せん、軍國主義の武力を以て、世界を統一せんこそせしかイゼル先生の不覺の爲めに、戰敗せし、獨逸國民なれば、此處に於て、貴國民は、紳士的態度を以て、千思萬慮、敗殘の獨逸奧利の國民をも世界

一四五

聯盟に、加へられたし。誠實ある、貴國民よ、正義の大平和策は、戰敗の獨逸を、除外しては世界平和は、成立せざるものなり。賢明なる、英國國民諸氏よ、君等は東洋の、貧弱なる我日本と、先年握手同盟せられしは、如何、無論、印度領地、保全其他東洋の、仕事の保護ならざるはなし。それ此處に至つて、一番反省考慮して以て、貴國が、世界の覇を、握らん

一四六
こ、欲せは、近隣の獨逸國とても、然り、米國亦
然り、印度とても、何時までも、屬領國として、
甘んじて居る、者に非らず。人類として、の
本分は、獨立にあり、豈に他を云ふに、及はず。
米國とても然り、既に、最近桑港に、大軍港を、
設置して、東洋を併呑せんこの、野心も、顯れ
あり。口に正義人道を説く、米國てさえ斯
の如し世界の將來は多々益々、戦備闘策に、

一四七
寧日なきか如し、世界は、未だ覺醒の域に至
らず、日に月に、益々國防に軍備に際限なく、戦
闘準備に怠らさるか如し。嗚呼何れの日
か、世界の眞の平和は到來するものなるか。
天を仰きて、長大息を爲す時に當つて、先づ
世界の智覺ある、大政事家は、貴國、則ち英國
の賢明なる、政事家に向つて、御相談を、試み
んごするなり。英國紳士諸氏よ、世界の歴

史は、廻轉變異興亡盛衰の、定理に鑑み、大英斷を以て、真正なる大平和を實現せんことを欲せは、英國は此際率先して、各領土を拋棄して、自然天然の五大洲に、分割して、五大國を、創造して、自田平等なる、平和策を、樹立しては如何。世界の歴史は、遠からず斯の如く實現し到達するの日もあらん歟。近頃世界改造の聲あるを幸ひ、此際大決斷の勇氣

を鼓舞して、世界を啓發教導あらん事を希望するものなり。然り而して平和なる大世界を創設せんことを當つては吾人太暢か、平和策に則り五大分洲を確立するに、歐羅巴一圓の、大同盟を結び戰敗の獨逸をも、無論同盟に加へ、五大聯盟國を樹立せられん事を、敢て英國民、諸賢士に訴ふ。

印度人に讀んで貰ふ論

貴國は、太陽の光線厚く、世界に於て、最も早く、文明開花せられたり。何れの國と、雖も、日當り能き、國土か、一番魁して、文開發達するもの也。古今三千年以前の、貴國は、世界文明の、中心にして、佛教祖、釋尊の、佛教開説の當時、既に、九十餘種の、宗教か盛んに、布

一五二
教せられたる由、實に貴國は、歐羅巴の、未
た、夢想にも、知らざる、三十世紀以前に、心教
の爲めに、九十餘種の、宗教ありしを、追想す
れば、將た、世の變遷の甚しき哉。今將た、英
國領の今日は、少數の國民中には、屬領を、脱
退して獨立を、高唱せらるゝ志士もあるよ
し。去なから、吾人太陽の説く、平和論の、熱
讀を、願かつて、地球の定理を、考慮願ひたき

ものなり。耶蘇教か、亞細亞に、エデンの樂
郷か、あつた事を、説くか如く、遠かすして、英
本國の、賢明なる、大政事家か、顯はれて、今に、
不羈の印度獨立國こ、なるかこも思はれる。
東洋は東洋西洋は、西洋こ、米國は、米國こ、黃
色人種、黑色人種こ、區別せられしも決して、
劣視する意味てはなく、只た人種の、異相を
唱へたるのみ。決して輕蔑せらるゝもの

一五四
に、之れなく、時よ時節を、待たれん事を、衷心
祈るものなり。我日本は、支那も、友邦なり、
印度も、隣邦、友國なり、兄弟國なり、況んや、英
國も、米國も、敵とせし獨ても、除外せず、所謂
世界は一天四界、皆な兄弟國なり。吾人太
陽は、此の世界、大平和論を著して、世界各國
の賢明なる。大政事家に訴へて以て、大平和
策を樹立するの念願なる事を印度の朝野

一五五
の國民の此平和論を讀んで、貫ふ理由は、則
ち、近き將來に於て、新平和策の樹立の現實
あらん事を、印度の朝野政事家に希ふ以故
なり。

支那國民に勸告す

中華民國諸氏よ、支那は、東洋にて、印度に續く、大文華國にして、我日本は、貴國より教へを受くる事、萬端文字に於ける教育に於ける儒教の如き、日本の武士道の素因、近き過去に於て、日本の恩人なり。然り而して、支那は、廣大なる世界の地圖の上にも、強大な

る國柄と世界各國より認められあるなり。然るに、人か人に對して傲岸尊大なる時は反つて敬服せず、支那朝野の人々か、日本人を見る事、恰も朝鮮の如く、小孤島の矮人、何するそこ、輕視するの、風習なきにしもあらさりしか。朝鮮問題に據り、其の緒を爲し近くは、海軍軍人、丁汝昌の如き、軍艦を引さ連れ、我神戸港に臨みし事も二十五年以前

の頃なり。元來日本は、支那に依り、君子の語を教へられた。日本國民は、君子を氣取つて、支那の行爲を視ひしに、貴國の一二政事家の禮の缺けたる、問題の爲めに、遂に日清戦役は、明治の二十七年頃勃發せり。大國と雖へとも油斷すな、小國たりとも、侮るな。の假令の如く、戦争は、遂に日本の勝利となりしも、貴國より教へられた、正義の戦ひ

は、則ち正義を行ふ日本の、勝ちとなつたな
れども、我日本人は決して、支那全國の、人民
は輕蔑せず師の如く、兄の如く、近隣、相反す
可らざる、道理を辨まへ居るか故に常に支
那に對しては、我政府の幾度更迭するとも
支那と同盟を説かざる時なし。世界の強
國は、稍ともするに支那併吞分割の行爲の
あるか如き、場合は終始一貫支那の爲め、東

洋大平和の爲め、苦心慘憺支那國を忘れた
る時なし。武力を以て世界を併吞せんこ
する獨逸か、既に山東省を割讓せしに對し
て如何に日本は、憤慨して、貴國の爲めに思
慮を煩はしたか。獨逸か青島へ築城した
のは何んの爲めか、是れ皆な我日本を劫や
かす手段ならざるはなし。獨逸は既に貴
國朝野の名士を青島へ祭り込み支那は既

に獨逸の屬領てあるかの如く、支那は獨逸の意嚮の如く動くか如く見へたる時もある。此間我日本は、常に支那保全の爲めに如何に盡せしか。百年以前の日本は、青年にして、支那に教へを、受けたとして今日の日本は、壯年にして老年の支那へ、返禮として、恩報するか義務の如く、我日本は、平常支那の爲めには、片時も、誠意を忘れさりし

に。今回、歐羅巴、大戦争にも、参加を進め、我日本は、此戦役を機會に、同盟國の義に、據つて、獨逸國と戦ふて、青島を、獨逸より、取り戻したるは、支那の爲めなる事を、思はさるか。それに却つて我國は支那に對し、野心あるかの如く朝野の人々か言喧ましく、排日問題を繰り返へすは何事なるか。日本の立場として、支那の將來として、何れにして

一六四
も、同盟協同せざる可らざる、國柄ならずや。歐羅巴の人々は、曰く將來に起る戦争は黄色人種と、白色人種の、戦争を豫想するてはない歟。則ち、支那と、日本は、同一の人種にして同盟協同する筈のものにして、既に歐米の政事家か、唱道する黄、白、戦争論を聞く今日に、未まに支那と、日本の分離、合同出来るは、則ち歐羅巴の先見ある、政事家か、集

一六五
つて、支那日本の合同を、好まざるか故に種々なる口實を以て、日、支、合致を、妨げつゝあるを知らさりしか、悟らさりしか。賢明なる、支那南、北、朝野の諸君よ、速かに、地球の自然天然の五大洲の分割に據り、東洋は東洋の支那と、日本は一致合同して、真正なる大亞細亞一圓を、一國と爲す可く。然して五大洲に、聯盟して、誠の大平和策を築造し、我

日本と、握手永遠の大同團結あらん事を。
 此著者太暘は、全日本の朝野の政事家と共
 に希ふ處なり。

我日本帝國朝野の政事 家へ告白

吾人太暘は淺學、文盲にして、誠に潜越にも
 世界の先賢に對し、斯の如き、迂論を著述し
 亦た我國に於ける、尊敬す可き、朝野の政事
 家に、謹告せんことす。吾人太暘か、世界大平
 和論を、著述するの動機は、昨年、侯爵西園寺

一六八
公望氏講和大使として、渡歐の際、切に乞ふて、平和論を、佛國巴里に於て講和會議の開催劈頭に、世界の政事家の集りある處に於て正義人道の爲めに、宣傳演説を試みんさせしも、同氏は是れを拒まれしを以て、茲に編輯して、全世界、億兆の人類の爲めに、眞正なる大平和策を提供するに至れり、扱て我同胞兄弟の諸君よ、世界の氣運は、既に戰

一六九
争に飽き五個年に涉たる戰慄す可き、屍山血河の慘狀を思ひなは、何んぞ、戦争を以て最後の結定を得るにも及はず。戦争は非文明なり、野蠻なりと覺醒あらは、吾人が編せし平和策を實行する時節は、正さに、到來するものこそは、須からく、我國の賢明なる政事家諸氏は、世界人道の爲めに、此の平和策を各國へ喧傳せられん事を偏へに希望

する者なり。然しなから、本編は過誤の僻論愚説も、多からん、謹んで、諸賢士の、教を待つ。

大正九年十一月十日印刷
大正九年十一月十五日發行

正價金五圓

著者兼發行者 高見太暢

東京府下荏原郡玉川村字用賀

印刷者 望月精矣

東京市京橋區南金六町十二番地

不許復製

印刷所 英文通信社印刷所

東京市京橋區南金六町十二番地



終

